

平成 21 年 9 月 16 日

「PC 構造物の復元設計手法の確立」委員会

第三回会議議事録

日時：2009 年 9 月 16 日（木）10:00－

場所：PC 技術協会 会議室

出席者：魚本，加藤，牧，三矢，小原，坂本，大木，山崎，左東，橋本，堀内，秋山，土田，水野，手塚，大塚，稲原，佐藤，出雲，土橋，勝木（順不同，敬称略）

配付資料：

3-0：第三回会議議事次第

3-1：第二回会議議事録（案）

3-2-1：WG1 資料-1

3-2-2：WG1 資料-2

3-2-3：WG1 資料-3

3-3：WG2 資料

3-4：鉄筋探査機の種類と性能

議題：

1. 委員長挨拶（魚本委員長）

魚本委員長から挨拶がなされ，PC シンポジウム等の情報が提供された。

2. 議事録の承認

加藤調整幹事より，第二回議事録案が紹介され，以下の点を修正し，議事録として承認された。出席者に佐藤氏を追加，WG1 の報告者中田委員→中井委員

3. WG の進捗報告

3.1WG1 の報告

牧主査から概要説明の後，資料 3-2-1，3-2-2，3-2-3 を用いて，三矢委員から復元設計フロー，左東委員から T 桁橋梁のケーススタディの結果，堀内委員から床版橋のケーススタディの結果について説明がなされた。主な討議は以下の通りである。

・床版橋の場合，桁高と鋼材本数の情報が重要であり，これらの計測に関して WG3 で検討する。

・PC 鋼材の本数は，プレテンの場合に必要な情報となる。

- ・ポステン T 桁橋は、JIS になっていないので詳細な計測が必要になると考えられる。
- ・復元設計結果と実際の設計結果の誤差はどの程度で、誤差を小さくするために必要な情報が何かを整理する。情報の取得（計測）方法に関しては、WG3 が検討する。

3.2 WG2 の報告

出雲主査から資料 3-3 を用いて、目次案と進捗状況が報告された。主な討議は以下の通りである。

- ・せん断に対する考え方が大きく変化しており、ヒアリング調査を通してその変遷を明らかにしたい。設計者の自由度に関して、報告書に記述する。
- ・報告書では、WG1 と重なる部分が生じる可能性があるが、原稿が出てきた段階で調整する。

3.3 WG3 の報告

勝木主査から、資料 3-4 を用いて現在一般的に用いられている鉄筋探査手法の紹介と比較説明がなされた。主な討議は以下の通りである。

- ・WG3 では、一般論ではなく、WG1、WG2 の結果に基づいて具体的な計測手法を検討する。このため、本日の WG1 資料のように、WG2 においても、必要な情報を整理し、WG3 に提供する。なお、計測手法は非破壊検査に拘らず、（微）破壊試験も含める。
- ・WG1 から、橋歴板が無いような構造物の施工年を推定する方法を考えてほしいとの要望があった。この件に関しては、加藤幹事が担当する。

4. その他

PC シンポジウム対応のために、各 WG、4、5 枚以上の ppt を作成する。詳細は、加藤幹事からメールで連絡する。

次回は、12 月 16 日（水）15:00～とし、報告書のドラフトを議論する。

以上